

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番 22	福山市立誠之中学校
最終更新日		2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 各校とも、児童生徒の学力向上に向けて、授業改善の充実や基礎・基本の定着を図っている。 家庭や地域と一体になった教育活動となること、その中核となる教職員がやりがいと責任を持って活動ができるように、仕組みづくりを検討してほしい。 	児童生徒の現状 <ul style="list-style-type: none"> 集団生活のルールを守り、周囲に気を配りながら学校生活を送ろうとする児童生徒が増えている。 標準学力調査において、達成率が40%未満の児童生徒の割合が高い。 睡眠やデジタル機器の使用時間など、生活習慣の改善が必要な児童生徒の割合が高い。 	育成する 資質・能力	主体性				
			知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生	
		めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒				
		中学校区として 統一した取組等	研究主題：自ら考え学び教育活動の創造 校区共通のSDGs：1 1 住み続けられるまちづくり				

III 自校

学校教育目標		主体性				
自らの学び 自ら考え たくましく生き抜く生徒の育成		知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生	
現状	<児童生徒> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒は、決まりを守り、落ち着いた学校生活を送っているが、一部の生徒においては、生活習慣が不安定となっている。 自分の思い・目標を持ち表現できる生徒が増えてきている。 将来を見据えて、粘り強く取り組みを継続できる生徒はまだ少ない。 長期欠席生徒が多い。 <授業> <ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた学習を行っている生徒は多いが、知識・技能の定着は、まだ不十分である。 学ぶ楽しさ(自分に見える世界の広がり)の実感が不十分なため、主体的な学習につながっていない。 	めざす 子ども像	1年	自ら課題を見つけ、解決に向けて情報を収集し、これまで学習したことを使って、自分の考えを説明することができる。		
			2年	課題解決に必要な情報を選択・分析して解決方法を見出し、仲間と共に解決に向けて取り組むことができる。		
			3年	課題を分析した結果とこれまで学習した内容を基に、他者と協力して解決方法を見出し、解決することができる。		
		研究	テーマ	生徒の姿と量的データに着目した授業改善		
			内容等	<ul style="list-style-type: none"> 学びに関する「見通し」と「見取り」の精度を高める。 学期ごとに授業・意識を検証し、指導・支援等の授業改善に生かす。 生活習慣を改善し、自己管理能力を育成する。 		
		めざす授業の姿	<発達支持的生徒指導を生かした授業> <ul style="list-style-type: none"> 自分の力に自信を持ち、自己の成長や学ぶ楽しさを実感できる課題設定のある授業(自己存在感の感受) 互いの考えを交流する中で、多様な価値観を認め合い、自分の考えを深める授業(共感的な人間関係の育成) 「教える」ことと「学ぶ」こと、「指示する」ことと「自分で決める」こと等バランスを考えた授業 (自己決定の場の提供) 安心して楽しく協同的に学べる雰囲気を感じられる授業 (安全・安心な風土の醸成) 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	学習に意欲的 に取り組む授 業づくり	★	新規	各種データの活用 と「見取りと見通 し」による授業改 善	・「できた」「わか った」「よかつ た」と実感でき る授業づくり ・生活習慣の改善 自己管理能力の 育成による学習 意欲の向上	・標準学力調査 昨年度より改善 ・生徒アンケート 「学校の復習をす るようにしていま す」 80%以上								
1	すべての生徒 が元気で登校 できる居場所 づくりと絆づ くり	★	新規	多様な学びの場と 安心・安全な学級 集団づくり	・多様性を生かす ことができる特 別活動 ・発達支持的生指 導による学級集 団づくり	・長期欠席生徒数 前年度より減 ・生徒アンケート 「自分の考えは認 められている」 85%以上								
1	教職員が生き 生きと働ける 学校づくり		新規	校内研修及び AI の有効活用による業 務改善	・5時間授業の日 かつ部活動休養 日を原則毎週確 保	・平日部活動休養日 週1回実施率 100%								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。